

# 恩田地区周辺の森 観察会

平成25年12月17日(木) 13:00~15:40

参加者：区民会議 自然・環境部会員 5名

「恩田の谷戸ファンクラブ」の方2名にご案内いただいた

**恩田地区周辺の森**は西の丘の上の尾根道が東京都町田市と神奈川県横浜市の都県の境界である。この森の一部あかね台1丁目、2丁目は、住宅地として開発されて森林は少なくなったが、残されている森は是非市民の森として次世代に残したいところである。

## 観察会

12月17日午後1時にこどもの国線恩田駅前に集合、曇りであるが所々青空を覗かせ風もなく寒さもほとんど感じない観察に適した日和であった。「恩田の谷戸ファンクラブ」の方のご案内で歩き始める。まず徳恩寺の山門下の道を左折し、右におおきな森を見ながら住居下の道を歩く。その家々の前にはあかね台1号雨水調整池、運動広場、あかね台鍛冶谷公園がある。



その先には、市民農園があり、農機具がきちんと並べられ整備されている。畑にはビニールトンネルが備えられており、その中にはブロッコリーなどがすくすくと育てられていた。更に歩みを進めると、庭の木々が美しい景観を醸し出している。家の脇には、子ノ辺神社の鳥居と石段があり、その上には鬱蒼とした森の中に建つ社がうす暗く見えた。



恩田町あかね台住宅を抜けると、大きなT字路の交差点に出る。幅広い道路を横切ると森の間の田圃の畦道に入る。ここはまだ谷戸の風景が残っているところである。稲刈りした後の田圃には10センチ程の緑の芽が出ている、その先は畑になっており、小松菜やブロッコリーが植えられていた。この畑の南端には湧水による小川があり、丁度枯葉で埋まっていたが、水は小さな音を立てて流れている。その畑の奥は斜面になっておりその上が東京都町田市との境界線の尾根道となる。

畑の奥から尾根道に出る小道はないので、雑木林の中を通り上に登って行ったが、その辺は今までこの近辺で見たこともない大きな羊歯の群生地となっているのにびっくりする。



尾根道に出ると、東京都町田市との境界線で、小道の真ん中に境界を表す石が埋められていた。尾根から見下ろす風景は、非常に良いのだが、高い送電線の鉄塔が目に入り、2年ほど前に出来た墓地と集会所が目立つのは残念である。しかし、恩田の住宅地や遠くに長津田の高層マンションのビルが見えるし、青葉区では少なくなった雑木林の大きな森が残っているのは、心を和ましてくれるところである。

この尾根道を子供の国方面に進むと、左側の町田市の土地の中に「風の広場」という小さな広場があり、「成瀬の自然を守る会」が管理しているところに出る。その手前の右側の青葉区の土地でボーリングをしているので、何をしているのかとお聞きすると、里芋畑等に水をやるために140m掘って井戸を作っていると教えて下さった。



墓地脇の細い小道を下って行ったのだが、ところどころに埋められた境界を示す杭が目立った。これは昨年から横浜市の「源流の森保存地区」となったところである。下りきって又大きな道を渡り、奈良 3 丁目団地の横の階段を下りて行くと「熊ヶ谷小川アメニティ」の看板の出ているところに出る。団地を造る際に、恩田町の森との境界に湧水小川を作った。冬なので生きものは見られなかったが絶滅危惧種のアホウドリが指標

生物になっている他、カワニナや多くの水生生物が生息し植生も豊かだという。

そのアメニティを暫く歩くと、昔は田圃だった雰囲気が残る。谷戸の奥の方まで見渡せる良い景観である。アメニティの奥からこのあたりまで広い範囲でみどり税によって森が担保された。このように僅かずつでも市民の森のきっかけになってくれれば幸いである。その脇の低い崖になっている小道を奥に進む。奥まで田圃の休耕地になっているところが続き最後は森となったので、同じ道を引き返した。戻って奈良 3 丁目の住宅地へ上がる。そこには第 2 雨水調整池があり、萱が茂っていた。そこから住宅地、奈良川、子供の国線沿いを歩き、再び出発地の恩田駅に戻り、今回の観察会を終えた。

